

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



2010年
11月号

目次

新メンバー紹介	2
旅行感想1	3
旅行感想2・活動報告	4
追悼文1・スケジュール	5
追悼文2・バザー報告	6
虫めがね1	7
虫めがね2・夕会	8
学習会報告	9
小野塚連載	10
太田連載・寄付のお礼	11
編集後記	12



今年はラニーニャ現象が発生した（している）為に残暑が厳しく（長く）寒冬に成るとの事です。あくまで予報なのですが、実際暑さが続いていて僕の友達も熱中症にかかりましたから、皆さんも熱中症等にお気を付け下さい。

田村 亮彦



新メンバー紹介



皆さんはじめまして。
僕の名前は柳川敬事といいます。
昭和54年12月8日土曜日の夕方に生まれました。
僕は井ものが大好きです。
顔はすまっぶの草薙剛さんに似ています。
携帯電話のメールが使えます。
風の子の皆さん、
これからよろしくお願いします！！

柳川敬事



旅行に行ってきたよ！



2010
9/4~5
かんぼの宿で
ハイチーズ!



今回、九日間風の子会で実習をさせていただき、最初は初めての経験ばかりで戸惑ってしまいましたが、皆さんが温かく迎えて下さったので、とても楽しく実習をすることができました。

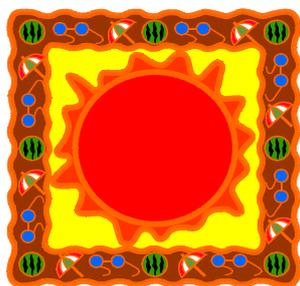
この風の子会での経験を今後の自分の将来に役立てていけるように、これから頑張っていきたいと思えます。

また、ボランティアで風の子会のイベントに参加させて下さい。よろしく願います。

井上 知香

実習期間中の九日間は、職員の方々やメンバーのみなさんに多くのことを教えていただきました。毎日、みなさんには迷惑をかけていましたが、それでも温かく見守ってくれたことに感謝しています。実習で最も印象に残っているのは、旅行でのカラオケ大会です。カラオケ大会は、メンバーの方々の素が見られて、とても楽しかったです！九日間ありがとうございました。実習先が、風の子会で本当に良かったです。

岡田 有紀



宴会での1シーン



ノッてるかーい？

小野塚 航

今年も風の子の一大イベントである一泊旅行が行われ、無事に、そして楽しく行ってきました。観光はりんどう湖ファミリー牧場と日光江戸村、宿はいつも通りのかんぽの宿でした。この塩原旅行は5年前にも行ったもので、観光地も宿も同じパターンでした。今年は雨よりも猛暑が心配でした。ファミリー牧場も江戸村も炎天下の中を歩き回り、ビールがとておいしかったです。かんぽの宿では温泉を満喫し、宴会ではご馳走やビールを満喫し、カラオケで盛り上がりました。カラオケでは約2名のおバカさんたちがステージに上がり込んで乱痴気騒ぎをして、みんな大いに楽しんでいました。

今年は参加者が40名とやや少なく感じられました。メンバーや職員が風の子を盛り上げて、参加者が少しずつまた増えていくようになればいいなと思っています。

活動報告

企画・工房とも港区民祭りの準備をしました。大きな行事としては旅行があり、今年はその須塩原へ行きました。工房は和紙・しおり・はがき・内職の仕事と平行して祭りの準備をしていました。

三木 直人



宿で夕食をとった時に、コラーゲン入りのゼリーのようなものが出ました。綺麗になれたかなと思いました。

また、江戸村ではとても暑かったけど、憧れのにゃんまげと一緒に写真を撮れたことが良い思い出になりました。

とても楽しい旅行が出来ました。

青木 和代



追悼文 「憶えてますか。」

金さん、憶えてますか。ここに古いビデオがあります。もう20年ほど前、NHKの朝の番組「暮らしのジャーナル」の取材を金さんと私で受けたときのものです。「背広を脱いでボランティア」というテーマで、当時まだサラリーマンだった私が、土曜日に金さんをお宅から三田の障害者会館までの送迎をしている様子を撮ったものです。風の子はまだ実習所がなくて、障害者会館の2階を借りて活動していましたね。車はまだキャブも1台しかなく、私のワゴン車も送迎に使っていました。

この取材の話が来たとき、はじめ金さんは手を横に振って断られましたが、「でも何とか」とお願いするとすぐに「イエーイ」と指でマルをつくってOKしてくれました。

品川にあったお宅の2階にある金さんのお部屋まで行くと、いつもの通りちゃんと着替えて荷物もそろえて待っていてくれました。あの2階で金さんは自分でお米を研いだり、片づけをしたり、何でもやっていましたね。おんぶして階段を下りるときは、金さんは背中にしがみつくのうまくとても楽でした。金さんは本当はちょっと怖かったのかもしれませんが。NHKの宮川キャスターはこの様子も是非撮りたい、と言ったけれど金さんに部屋の中はだめ、と強く断られて残念がってました。

外に出て車椅子に乗って、まず行くのは近くのコンビニ。そこで買うのはいつも決まっていて、お昼のパンひとつとバナナ1本、そしてスポーツ新聞でした。巨人が勝った翌日はとくに上機嫌で新聞を読みましたね。それから金さんはワゴン車に車椅子から自分でよじ登って乗り込み、平らにした座席に金さんがどっかと座り込んで出発です。

車の中では巨人のことや風の子の活動のことなどを私が話しかけると、金さんはうれしそうに指でOKサインをだしたり「イヤ、イヤ」をしたりして、会話が弾みました。手足が不自由でもたいいのことは何でもやれること、声は出なくても意思ははっきりと伝えられること、NHKの人にはそれがとてもユニークに見えたそうです。

このビデオは先日風の子で何人かで改めて観ました。金さんも私もまだ髪の毛が黒々としていて若々しい様子に、皆懐かしがりながら、お元気だった金さんを偲んでいました。

金さんは今も天国で風の子会のことをOKサインで「イエーイ」と見守ってくれていますね。

岡本 明

スケジュール

- 10月20日 総務部
- 10月23～24日 きょうされん全国大会@福岡
- 10月26日 運営委員会
- 10月31日 ヒューマンプラザまつり

追悼文

きんちゃんを偲んで

風の子会の、初期の頃を知っている、仲間の金田潤坤さんが八月十七日に、お亡くなりになりました。ほくと金ちゃんとの出会いは、今から約三十年位前のこと。ウエス班で僕と一緒にの仕事をしました。金田さんはいい意味での頑固者。ですから、一旦自分がこうと決めたら、誰がなんと言おうと自分の意見を通すという今の人達には、ない考え方の持ち主でした。近頃そういう考え方をする人が少なくなってきただけに、本当に惜しい方を亡くしたと思います。金ちゃん天国でもずっとその頑固さを貫いてね。

太田 稔

バザー報告

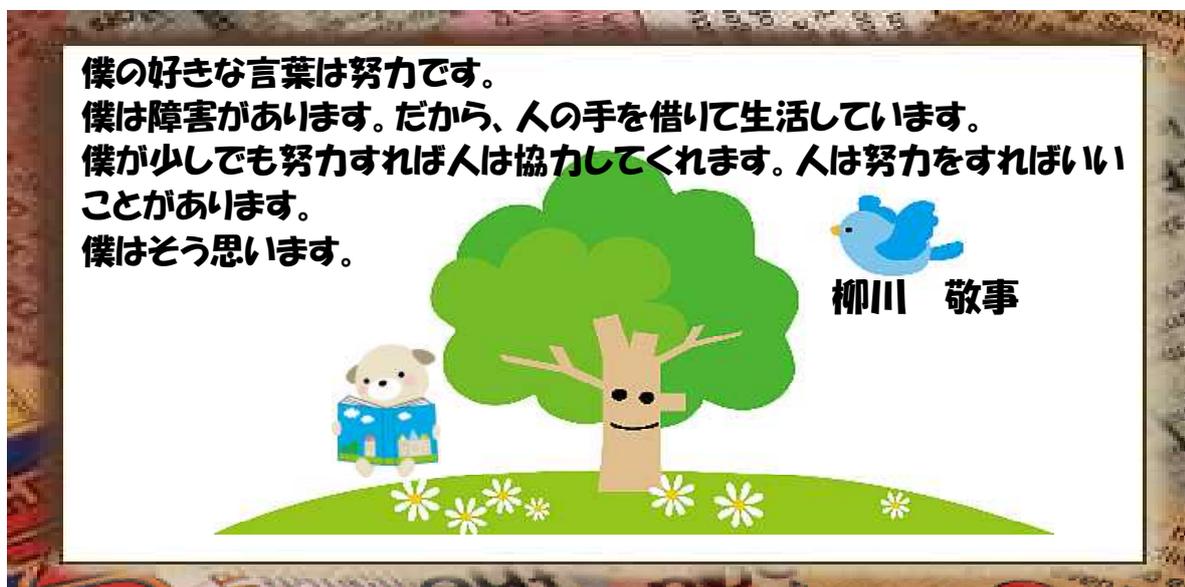
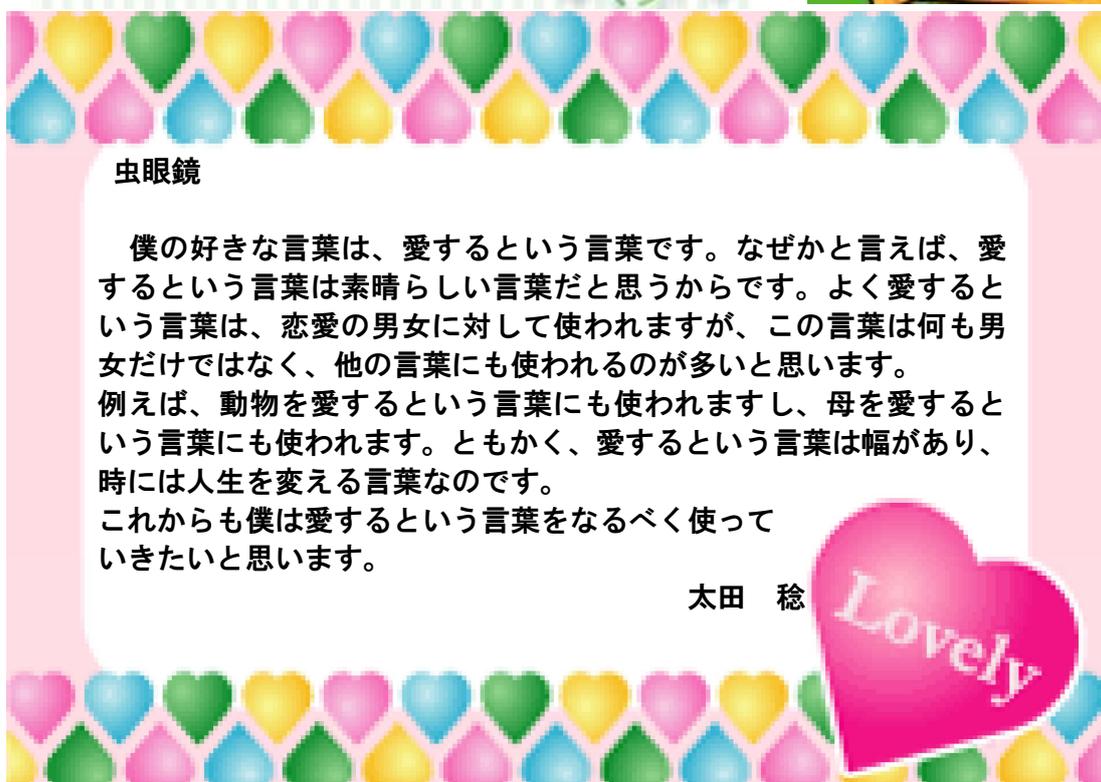
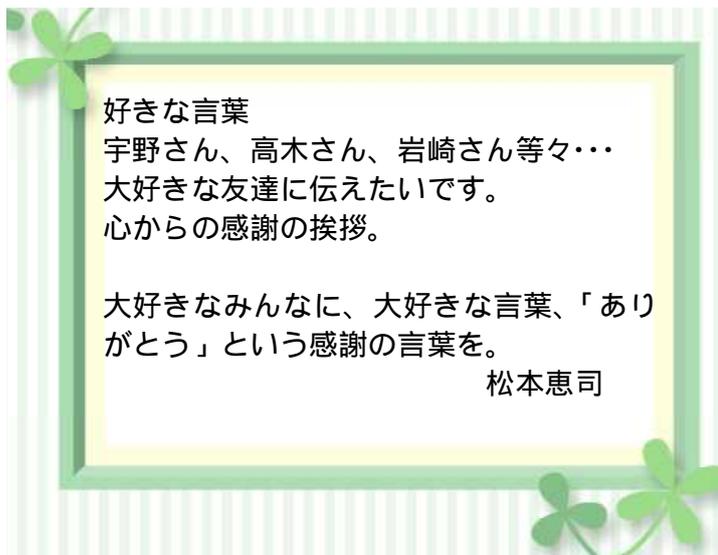
九月十一日（土）・十二日（日）
芝学園にてバザーが行われ、風の子の商品を出展販売をしました。

毎年商品のための参加のため、詳しい内容は書けませんが、毎回のよう完売をしていただき、今年も完売をしていただけ、風の子一同感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。

田中 聡







虫めがね



私の好きな言葉といつても、色々とききな言葉がたくさんあって、一言では言えない。その中から好きな言葉を選んでみました。

私の好きな言葉、第一位明治天皇御歌、朝ぼらけ 澄み渡り蹴る大空の広きをおのが心ともがな。第二位、福沢諭吉、天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず。

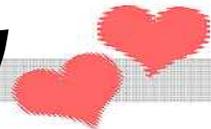
私は、この格言こそが、まさに、風の子会の根本の精神であり、職員と我々障害者会員の間でも、先輩後輩の上下の関係の区別が全くない、これこそ風の子の精神であり、よその施設では決して見られない、風の子独特のものである。みんなが平等であることこそ、天は人の上に人を作らず。人の上に人を作らず。これこそ民主主義の根本であると思います。

和栗

私はこの言葉が大好きなのです。



夕会便り



区民祭り（第三テントの使い方について）

今年の区民祭りは、テントを三つ使えることになったので、第三テントを何に使おうかとみんなで話し合いましたが、結局風の子会の紹介ビデオの上映と、衣類を除くバザー品を置く事になりました。

(追伸)

夕会の時間が余ったので今後作業所で使う、必要な物は何かをメンバーで考えました。

太田 圭子



学習会便り

九月一日【今後の予定決めについて】

前半と後半を使い、予定決めを行いました。今までの学習会は「テーブルゲーム」や「ボーリング」など、皆が楽しめることを行ってきました。今回は比較的「国際福祉展示場」や「区民祭りの準備」など、まじめに取り組む学習会になりました。

九月八日【交流会について】

前半と後半を使い十日間に渡り実習にきてくれていた、明学生二名が最終日を迎えるため、二人で考えたクイズなどを、皆で楽しく行いました。二人の趣味や好きな芸能人を題材にしたクイズを行い、自分たちで考えたクイズをしました。少し時間が余ったので、二人への質問タイムを行いました。

九月十五日【星座の話&ポッチャ】

前半に星座の話を行い、後半はポッチャを行いました。星座の話は職員岡本さんが講師となり、成り立ちやそれぞれの星座の形を絵にして、皆に分かりやすく星座の話をしてくれました。後半のポッチャは、皆初めて行うということで、ルールの説明を経験のある田村さんの監修のもとで、ポッチャを楽しく行いました。

九月二十二日【料理教室について】

料理教室ということで、皆でプリン・アラモード作りをしました。今回の調理は簡単に出来るため、後半に料理教室をして、前半は前回の夕会の続きで、三つ目のテントの使い道を話し合いました。バザー品やDVD撮影会など、前回の夕会で話し合われた内容をこの日に再度話し合いました。区役所の方にも、仮にゲームをやるスペースの問題点や、DVDを写すための状況などを確認して、次回の夕会の時に決めることをしました。後半は、皆でプリン・アラモード作りをしておいしく食べました。

九月二十九日【福祉機器を見に行く】

午後のひとときを使い、有明にある東京ビックサイトで行われている、福祉機器展示場へ行ってきました。会場へ到着をして、それぞれの班で行動をし、最新の補聴器や福祉車両などを見て回りました。僕らの班は、調理器具と車イスを見て回りました。スプーンやフォークなどの器具を見たり、僕が利用している車イス会社が、毎年のように出展をしているので、今回も見学をしました。最新型の車イスやクッションなどを試してみたりしました。僕が利用している会社は、アメリカに本社があり、デザインがよく格好いいのが特徴です。皆さんも福祉機器展に行ってみては・・・。

田中 聡

わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第31話 途中入寮生について その5 ～ あとがき、あるいはいいわけ ～

すみません。前回「次からは新章です」などといっておきながら、もうちょっとだけ続きます。今回の『途中入寮生編』はそれまでとは少し違ったテイストの話となっているので、ちょっと“あとがき”のようなものを書き、追加説明のようなことをしてみようと思い、「その5」とした訳です。初めはサブタイトル通りに途中入寮生の説明のつもりで書き、それまで通りの1話完結か長くても前後編くらいの話のつもりでいたのですが、マリという登場人物を出してから「これも書きたい、あれも入れないと」という感じにどんどん話のイメージが広がってしまい、4回も続くちょっと長い話になってしまいました。ファミレスで徹夜したことも、レンタルビデオを二人で観たことも、海ドライブも降るような星空を眺めたことも、忘れることのできない素敵な思い出です。それを、それまで通りのテイストのモノローグ調で書いてしまうと味気ない話になってしまいそうな気がしたので、登場人物達に多少の演出を加えて喋らせて、恋愛物語のようなストーリーに仕上げてみました。ラブストーリーを書くのは少し苦手なので、読んでくれた方々がどのような感想を持ってくれたのか、不安が残ります（結末も曖昧な終わらせ方をしてしまっているので、ラブストーリーという体裁をきちんと取れているのかも自信がありません）。

『途中入寮生編』に出てきた人達とは、卒業以来全く連絡を取っていません。ですから彼らが今、どこで、何をしているかは知る由もありません。本当ならば、そんな彼らとのエピソードを描くよりも、それ以前に出てきたアルファベットで名付けられた人達との話を書く方が、リアルで正しいことなのかもしれません。けれどそれができないのは、アルファベットの彼らとは今でも関係が続いていて、そういう人たちについて正確にリアルに客観的に、かつドラマチックに書きあげるだけのスキルと勇気を持ち合わせていないから、というのが正直な理由です。

けれど、『途中入寮生編』を書き上げたことで、もしかしたらこういう形でならアルファベットの彼らとのエピソードも書けるのではないか、という微かな期待がもてるようになりました。これから、どういう形で彼らとのエピソードを織り交ぜていくか、織り交ぜていけるかはまだわかりません。ただ、こういうエピソードを加える事で、ドミトリーライフという本編がより広がりを見せてくれるのではないかという期待感をもてれば、あるいは僕自身のモチベーションを高めてくれる要素となるのであれば、それは嬉しいことであるはずです。

さて次回からはまたいつものテイストに戻ります。寮生活4年目の後半です。今後もまた『途中入寮生編』のようなエピソードを入れながら寮生活＝ドミトリーライフを物語っていききたいと思います。

～ 第32話につづく ～

さて疎開先での僕の大きな事件といえば、のどに釣り針が刺さってしまって抜けなくなり、痛くて苦しくて死ぬかと思ったことです。あの時もう少し医者が来るのが遅れていたら、今日の僕はいなかったと思います。

詳しくその時の模様を書きますと、その日は暑い夏の日でした。誰かが河でウナギを大量に釣ってきたのです。早速蒲焼きにしてくれたのですが、田舎のことですから、骨を取らずに焼いてくれました。それが大きな間違いのもとでした。食事をしているとき、僕は激しくのどが痛み始めたのです。最初はウナギの骨がのどに刺さったのではないかと思いました。母は、一生懸命のどに手を突っ込んで、骨を取ろうとしてくれるのですが、いっこうにとれません。母が困っていると父方の祖母が、

「かおるはん、稔のその痛がりようはただの、のどに骨をつっかえて痛がっているのはらよっとばかり訳が違うらしいで」

母はその言葉で、ちょうど医者と呼ばうとしていたので、そのきっかけが出来ました。そしてお医者さんが来てくれました。ぼくののどをみたたん、

「これは骨なんかじゃない。釣り針ですよ、釣り針。それでも発見が早かったから良かったけれど」

お医者さんはそう言って、あっさり僕の口に手を突っ込んで、その釣り針を取ってくれました。

太田 稔

僕の生い立ち

寄付のお礼

寄付を下された方
美馬貴志様
賛助会にご賛同して
下された方
武藤金一様



ご協力ありがとうございます。
ございます。

私は去年の12月までは左足の親指と人差し指でパソコンのキーボードとマウスだけで打っていた。しかし、12月に入り段々両足が動かなくなり、25年前から毎日パソコンをしていたのが出来なくなったので、私の心はとてもショックだった。

でも風の子会のパソコンの画面の中に文字盤が有って足下の丸いボタンを押せば出来る様になったので嬉しい！



幸 高史

編集後記



「ダイエット」読者の皆さんはこの言葉を聞いてどう感じますか？ 単なる減量と考える方が殆どだと思います。ダイエットとは、本来「いかに美しく痩せ、かつリバウンドのない身体にもっていくか」という意味です。私のお奨めするダイエット法は、チョコレートダイエット法&食事ダイエット法です。チョコレートダイエット法は、空腹時に一口食べればOKというごく簡単な方法です。チョコレートの糖分がすぐ脳に伝わり満腹感が得られ自然に一回の食事量が減り無理なく



ダイエットにつながるというものです。またもうひとつの食事ダイエット法は、朝・夜の食事を入れ替える方法です。朝食にしっかり摂って、夕食は軽めに済ませておく自然に痩せられてリバウンドの心配もない。これも無理なくダイエットできるというものです。

三木 直人



ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集者
和幸右松田小太
栗田本中野田
頭塚
太高磨恵圭
郎史子司聡航子

吉柳三田佐太
田川木村久田
間
久敬直亮
代事人彦庸稔

編集人：【高浜生活実習所】
生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

